

発表者7 袁 佳玲



出身・ルーツ 中国

日本に来たのはいつ?

2005年7月

日本語を勉強している期間は?

8年間

発表者コメント

日本と中国の学校の教え方の違いに興味をもち、皆さんに聞いてほしいと思いました。

推薦者コメント 【大和日本語教室 酒井達男 先生】

「継続は力なり」の通り、日々の努力が着実に日本語力を伸ばしています。子育ても日本語学習も頑張っています。

スピーチタイトル 「どっちがいい」

みなさん、こんにちは。私は袁佳玲と申します。中国の重慶市から参りました。私のふるさとの重慶市は辛い鍋料理が有名です。日本へ来て、もうすぐ8年になります。今は、6歳と4歳の2児の母です。最近、私は子どものことを心配しています。現在のことや将来のことなど、いろいろなことです。そのことを、今日ここでみなさんに聞いていただこうと思います。娘は今年、小学1年生になりました。もうそろそろ3ヶ月です。でも、まだ「ひらがな」の勉強をしています。それに、入学して最初の1週間は、学校にいるのは3時間だけでした。それからだんだん時間を伸ばして、今は学校生活にも慣れました。中国人の私から見ると、3ヶ月間毎日ひらがなだけを勉強しているのはふしぎです。もっと漢字も早く勉強した方がよいと思います。ゆっくりすぎるから、日本では漢字が書けない子どもが増えているのだと思います。

娘が幼稚園の夏休みの時、中国へ帰りました。家の隣の一つ上の男の子は、もう漢字をたくさん勉強していました。さすが漢字の国の子どもです。でも、日本の小学生たちは、勉強が苦手な子が増えているような気がします。学校から帰ってすぐ遊び、そのあとは、夕食、お風呂、ゲームをしてあとは寝るだけ。ちょっと何か忘れていると思いませんか。そうです。宿題や翌日の授業の用意です。私の娘は、ある朝、学校へ行く時間になって「あ！宿題忘れた！」と言いました。私はカッときて「ああ！何で今頃！」とショックを受けました。今の子どもは、どこの家でもこんなものなんでしょうか。日本の学校は面白いところもあります。「運動会」は全員が参加することや「学園祭」や「部活」を大事にすることなどです。でも、学校生活は楽しそうですが、勉強はあまり大切にしていないような気がします。

私の住んでいるマンションで、毎日携帯用ゲーム機のDSで遊んでいるグループがいます。親たちは「まあ、悪いことしていないからいいんじゃないの」と言っています。日本では、教科書の教える内容が3割減ったそうですが、学校で先生が教えないと、家では自分で勉強しないのじゃありませんか。

日本では、受験の時期になると塾へ行く子どもがたくさんいます。勉強ができなくても、「塾へ行けばなんとかなる」と思っている子どもが多いようです。私も、知り合いのお母さんに「今から貯金したほうがいいよ。塾に入るために」と言われたことがあります。「え！今から！まだ6歳なのに！！！」と思っても、熱心なお母さんに対して「そうですね・・・」としか言えませんでした。

中国で、私は、毎日朝早くから夜遅くまで勉強していました。時々、土曜日、日曜日学校で勉強しました。今の中国の学生も同じです。毎年6月に「全国統一試験」があります。いい成績を取って有名な大学へ行こうと頑張ります。日本では、授業が終わった

後の「部活」に熱心な学生もいますが、中国では授業が終わったあとも勉強です。結構、心も体も疲れます。

日本のように、ゆとりのある教育がいいという外国人もいます。私も中国で大変だった学生時代を思い出すと、「子どもにはどっちがよいのだろうか」と悩みます。でも、健康で、自分の目標に向かって頑張れる子どもになってくれれば嬉しいです。

子どもを育てるのは親の責任です。今では、子どもの勉強のことも親の責任になっています。子どもが小さい時はもちろん、大人になっても、親の苦労は続きます。私の子どもはまだ6歳と4歳でまだまだ先が長いですが、でも、だから私も頑張れるのだと思います。今、会場にいるお父さん、お母さん方もきっと同じだと思います。

これから、いろいろ悩みながら私も成長したいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

● 来場者・発表者からの応援メッセージ

- 中国との教育制度の違いがよくわかりました。親としていい選択ができるといいですね。(竹山)
  - 子どもの教育は大変ですね。これからはいろいろと問題が出てくるかもしれませんが、かっこいいお母さんなので大丈夫だと思います。(中島)
  - 母親としての悩みが具体的にスピーチされていて、とても良く伝わりました。どちらが良いのかわかりませんが、どちらも良さがあると思うので、両方を知っているお母さんとして、子どもにアドバイスできると良いですね。(T)
  - 子どもの教育は悩むことも多いですね。子どもと一緒に成長できるといいですね。
  - 日本と中国の両方のいい所を子どもたちに教えてあげてくださいね。(長谷部)
  - 国によって生活、学習、考え方の違いを改めて感じました。国の違いはあっても「よい所は取り入れ」「悪い所は変えていく」ことが大切だと思います。(伊藤)
  - 両方の良い所を取り入れて子育てをがんばって下さい。(若林)
- (他メッセージ多数)